



小値賀島と斑島をつなぐ斑大橋(上)
赤土の田んぼの向こうに海が広がる島ならではの風景(下)

次々と展開する
島の風景に心を奪われる。

五島列島
小値賀町



島では放牧地と牛小屋を往来する牛に出会うことも(上)
島内で見られる「牛に注意」の標識(下)



松のトンネル「姫の松原」は、子どもたちの通学路でもある。

小値賀町

翌

早朝、新上五島町の有川港から高速船で小値賀町へ渡った。小値賀町を形成する大小十七の島々はその昔、火山の噴火によってできたもの。そう、古来よりミネラル豊富な赤土が島に豊かな恵みをもたらしてきた。人が暮らす六つの島のうち、小値賀島と斑島、黒島は橋でつながっており、なだらかな地形の島々は自転車でもぐるぐるとおすすだ。

本島ともいうべき小値賀島には、日本名松百選にも選ばれた「姫の松原」をはじめ、地元の人や観光客に人気の「柿の浜海水浴場」、名所「五両ダキ」など、観光スポットが目白押し。しかしそうした名所だけでなく、赤土の水田が広がる景色や、牛たちが気持ち良さそうに草原で草を食んでいる光景など、この島で営まれている日常が垣間見える風景に心が癒される。

白い橋を渡り、斑島まで足を延ばすと、海を背に真っ白な鳥居が立つ草原や、「玉石様」と呼ばれるポットホールを見ることが出来る。風はどこまでも爽やか

で、気持ちがいい。

小値賀はめくるめく風景が魅力だ。次々に印象の異なる風景が展開し、いくつもの島をめぐるような錯覚を覚える。この島に魅せられて移住する人たちが多いというのも納得だ。

島を案内してくれた「おぢかアイランドツーリズム」の木寺智美さんも、神奈川県から移住してきた一人。「小値賀で暮らして十二年経ちますが、最近、この島で培われた歴史や文化が今に結びついているのを感じています。遣唐使の時代から、大陸と日本を繋ぐ航路上にあったこの島には、国内だけでなく海外からも多くの人が訪れて、さまざまな文化を運んできました。それは今も同じで、小値賀には外国人の移住者も多く、多様性の島だなと感じます」。

美しい松のトンネルを通って子どもたちが学校へ行き、小さな港では漁師たちがおしゃべりに花を咲かせている。そしてヨーロッパからの移住者たちはまるで自分の故郷を散歩しているかのように、のんびりと自転車のペダルを漕いでいる。木寺さんはこう続けた。「小値賀は太古から人が住んでいた島で、人が途絶えたことがありません。それを私たちが未来にどう繋げていくのか、それを今、考えています」。

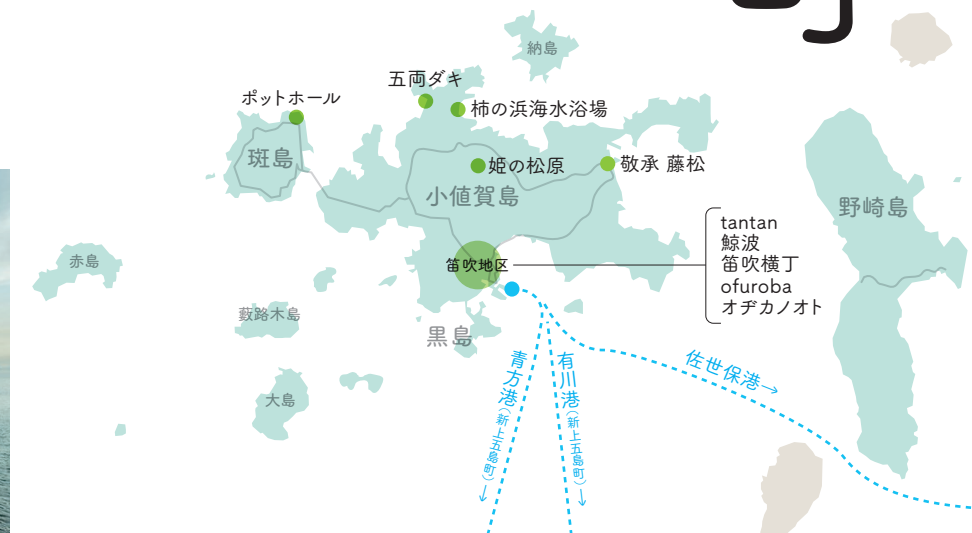
海がきれいな小値賀では、夏はカヤックやサップなどのアクティビティが楽しめます。

ポットホールは、岩の裂け目から入る荒波で玉石が回転し、玉石がどんどん穴を削ると同時に、自身も丸くなりながら奥深く移動したもの。約6000年の年月をかけて現在の形になったという。



幾万年の海蝕によって生まれた絶景「五両ダキ」。

柿の浜海水浴場



おぢかアイランド
ツーリズムの
木寺さん

